つくしだより　2026 年 6 月号より

天の川を駆け上がろう

＜今月の聖句＞　「見よ、それは極めて良かった」（創世記１章３１節）

「ねぇ、ここにおはな　さいてるよ」
この春、幼児グループになったばかりの２歳の子たちがしゃがみながら
呼び止め教えてくれました。
見ると園庭の傍らに、しっとり紫、ツユクサでしょうか。
「わぁ、なんて奇麗なお花なの」と、こちらが喜ぶ姿に気を良くしたのか
眺めていた私の左右の手を引いて、始まった園庭ツアー
ここにも、あそこにもほら、
と次々と指をさしながら、これまでに見つけた
お花を一つひとつ紹介してくれます。
名前と似つかぬほど白く美しいドクダミ
存在感あるアイリス、小さな小さな芝桜…
改めて、たくさんの種類の花が咲いている
ことに驚きです。

神さまはお花も大地も大空も、生きとし生けるもの全部
お造りになった時、思わず叫ばれたそうです。
「なんて美しい！（見よ、それは極めて良かった）」
あこがれだった幼児園庭が、ついに自分の庭になった子らが
最初に気づいたのも自然の美しさ。嬉しくて心弾んで誰かに伝えたくて
たまらなかったのでしょう。

その子どもたちやお花たちを覆うように今、空には
七夕には一足早い「天の川」がかかっています。
実は上下園庭をつなぐ長さ２５メートルもの寒冷紗。恒例
の真夏日対策ですが、今年はびっくり特大サイズ
子どもたちが首を大きく振って見上げて言いました。
「このままお空にまっすぐ駆けて行きたいな」
「天の川」を駆け上がる子どもたちを見たならば、
天の神さまもにっこり微笑まれることでしょう。

（つくし保育園園長　つだかずお）